

# 第61回高齢者排泄ケア講習会

日 時：令和元年 11月1日（金）18:50～21:00

場 所：TKPガーデンシティ PREMIUM 天神駅休ホール メインホール A ※次頁の地図をご覧下さい  
〒810-0001 福岡市中央区天神 1-4-1 西日本新聞会館 16F

参加費：1,000円 募集定員：130名 Field※：B(排便管理)、D(その他)

## 【申込方法】

■必要事項①所属施設名、所属部署・住所（施設に所属してなければご自宅の住所で結構です）②氏名（ふりがな）③電話番号 ④「第61回講習会受講希望」と明記のうえ、ハガキもしくはFAXにて下記事務局までお申込下さい。申込締切は令和元年10月28日(月)です(当日消印有効)。10月30日(水)までに先着130名様へ入場券を送付します。入場券がお手元に届かない場合はお申込みが受け付けられておりませんので、下記事務局までご連絡下さい。

■入場券がない場合は受講できないことがあります。当日の申込は参加者が多い場合には受付けできませんのでご了承下さい。また、当委員会ホームページ（<http://fukuokahaisetsu-net.org/>）でも申込を受け付けておりますので、ぜひご覧下さい。締切日以降は、お電話にて直接お問合せ下さい。締切日前でも定員になり次第、締め切らせていただきます。

■お申込によりご提供いただく個人情報は、講習会の出欠確認および今後の活動のご案内以外の目的で使用されることはありません。

※ Field A：排尿管理 / Field B：排便管理 / Field C：感染対策 / Field D：その他（スキンケア・オムツはずし・認知症・介護・保険他）

詳細はホームページ「排泄ケア認定制度のご案内」をご参照下さい。

## テーマ：在宅生活を支える排便ケアの取り組み

● 情報提供 「高発酵性水溶性食物纖維 サンファイバーについて」 太陽化学株式会社

開会の挨拶：山口秋人 先生（特定非営利活動法人 福岡高齢者排泄改善委員会 理事長）

【第1部】座長：荒木靖三 先生（大腸肛門病センター くるめ病院 院長）

### 講演1：『作業療法士が実践する排泄環境アセスメントと支援のポイント』

講師：一木愛子 先生（社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団

地域リハビリテーション支援センター 主任技師 作業療法士）

### 講演2：『管理栄養士からみた排便ケア～退院支援の取り組み～』

講師：大久保美那子 先生（医療法人財団 聖十字会 西日本病院 栄養部）

### 講演3：『在宅での排便ケアに関する薬剤の使い方』

講師：種子田美穂子 先生（NPO法人日本コラボ協会 コラボストラーバイオ）

\* 講師の先生方からのコメントは次頁をご参照下さい

～ 休憩～

## 【第2部】質問を基に皆さんとフリーディスカッションをしましょう！

コメントーター：荒木靖三 先生、一木愛子 先生、大久保美那子 先生

ファシリテーター：種子田美穂子 先生

閉会の挨拶：今丸満美 先生（特定非営利活動法人 福岡高齢者排泄改善委員会 副理事長）

共催：特定非営利活動法人 福岡高齢者排泄改善委員会、太陽化学株式会社  
後援（予定）：福岡市泌尿器科医会、福岡市医師会、福岡県看護協会

NPO法人 福岡高齢者排泄改善委員会 事務局（月曜～金曜 9:00～17:00 土・日・祝日 休）

〒812-0033 福岡市博多区大博町1-8 TEL:092-282-5910 FAX:092-282-5812

※この講習会に関するお電話でのお問合せは11月1日（金）17:00までとさせていただきます

## 会場までのアクセス



地下鉄をご利用のお客様

地下鉄空港線天神駅より徒歩約 5 分

地下鉄七隈線天神南駅より徒歩約 1 分

西鉄電車をご利用のお客様

西鉄福岡（天神）駅より徒歩約 3 分

JRをご利用のお客様

【タクシー】JR 博多駅よりタクシーで約 10 分

【地下鉄】博多駅より天神駅まで 5 分

→ 天神駅より徒歩約 5 分

一木先生からのコメント：

本人も家族も自宅へ退院するにあたって、排泄は自分で行いたい、行ってほしいと願うものです。リハ職の役割として、自立へ向かうために適切な環境、適切な介入が望まれます。適切な環境設定は、動作の安全、介助者の負担軽減、今後の排泄動作の自立のきっかけとなるのではないかと考えています。また在宅復帰後も、今まで可能だった動作が難しくなり、動作を再考しなければならない場合があります。一般的な改修を提案するのではなく、環境と身体の動きに目を向けて、排便時の座りの筋緊張状態、手足の反応や本人の表情などを観察し、その反応がなぜ起きているのか考えた上で、動作の評価を行い、個人に合わせた環境や介助方法の提案が必要です。今回は、私が日頃実践している内容について、事例を通してお伝えしたいと思います。

大久保先生からのコメント：

地域包括ケアシステムの構築を目指し、退院支援の場面で栄養管理の重要性が増している。そのひとつが排便ケアである。地域包括ケア病棟で退院支援に取り組む管理栄養士が、事例をもとに排便ケアのポイントを簡単にお話しします。

種子田先生からのコメント：

在宅での排便ケアでの薬剤の使用については、「その方の排便周期に応じて、出しすぎず便性状を整える」ことにポイントをおくと、ご本人も介護者も気持ちよい在宅生活に近づきます。簡単に、薬剤を使用する際のコツをお話しします。